

平成24年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	生物多様性条約拠出金(義務的拠出金)	担当部局庁	国際協力局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成5年度	担当課室	地球環境課	課長 杉中 淳			
会計区分	一般会計	施策名	VII-3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3	関係する計画、通知等	生物多様性条約財政規則及び第10回締約国会議決議45				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	生物多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用及び遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を目的とする生物多様性条約の事務局の活動を支援						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	各国の年間拠出額は、隔年で開催される締約国会議において本条約の財政規則に基づいて決定される。各国からの拠出金は、条約事務局により、締約国会議の開催準備、締約国会議の決定事項の推進、各種報告書の作成、他の関係国際機関との協力、開発途上国の支援、普及啓発、情報提供などの業務を行うために用いられる。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算	238	193	151	153	162
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
		計	238	193	151	153	-
		執行額	238	193	151	-	-
	執行率(%)	100%	100%	100%	-	-	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
	生物多様性の保全、持続可能な利用、及び公正かつ衡平な利益配分の状況。192ヶ国+EUが批准。	成果実績		生物多様性の状況は悪化	生物多様性の状況は悪化	名古屋議定書や愛知目標の採択など重要な成果	
		達成度	%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	事務局が開催した会議数	活動実績	回	2008年6月から2010年7月の間に、126の会議、8,021頁の文書、及び1,063名以上の出席者(UNEP/CBD/COP/10/7)	2008年6月から2010年7月の間に、126の会議、8,021頁の文書、及び1,063名以上の出席者(UNEP/CBD/COP/10/7)	本年10月に開催されるCOP11において報告される予定	-
	作成した会議文書等のページ数	(当初見込み)	ページ				()
	主要な会合期間会合への出席者数		人				
単位当たりコスト	401万円/会議(2009年における会議1回あたりの我が国のコスト)	算出根拠	238百万円(2009年度の執行額)/(129(2008年6月から2010年7月の間の会議数)×12ヶ月/26ヶ月)				
平成24・25年度予算内訳 (単位:百万円)	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	生物多様性条約拠出金	153	162				
	計	153	162				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	生物多様性条約の目的達成に我が国が貢献することについては、2010年に名古屋市で開催されたCOP10に対する国民の反応に鑑みれば、広く国民の理解が得られているものと考えられる。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	使途の必要性、コスト削減努力の妥当性などについては、締約国会議の場などにおいて厳しくチェックされているが、問題は確認されていない。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	一昨年に名古屋市で開催されたCOP10において採択された愛知目標の達成のための取組や、名古屋議定書の早期かつ効果的な実施のための取組などが着実に実行されている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>拠出額や使途が適切かどうか、効果が上がっているかについては、締約国会議等の場において、我が国をはじめとする先進締約国により厳しくチェックされており、問題は確認されていないが、引き続き効果的な事業の実施を求めている。</p>		
<p align="center">予算監視・効率化チームの所見</p>			
		<p>日本の分担額・拠出額に応じて要求額を見直し</p>	
<p align="center">上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)</p>			
		<p>日本の分担額・拠出額に応じて要求額を見直し</p>	
<p align="center">補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)</p>			
<p align="center">関連する過去のレビューシートの事業番号</p>			
平成22年行政事業レビュー	32	平成23年行政事業レビュー	22